

令和5年度全国学力・学習状況調査(4/18 6・9 学年実施、5/15 9 学年実施)について、結果が公表されましたので、本校の結果ならびに分析と対策についてお知らせいたします。

1 結果

学年	令和5年度	国語	算数・数学	英語	英語 「話すこと」
6 学年	全国	67.2	62.5		
	茨城県	67.0	61.0		
	本校	70.0	70.0		
9 学年	全国	69.8	51.0	45.6	12.4
	茨城県	71.0	51.0	45.0	
	本校	81.0	59.0	54.0	20.0

2 6 学年の分析と対策

(1) 国語

○成果が見られた問題

3 一 (2) <本校 **90.0%** 県 71.8% 全国 74.0%>

必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる問題

【分析】

・相手の話の内容を具体的に捉えることができている。話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える学習を行ってきた成果であると考えられる。

●課題のある問題

2 三 <本校 **55.0%** 県 62.1% 全国 62.0%>

情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題

【分析】

・重要な言葉を整理したり理解したりすることはできているが、運動と栄養素の働きが関係付けられていることを捉えることはできていないと考えられる。また、図の情報を整理して、語句との関係を表すことが難しいと考えられる。

3 三 <本校 **50.0%** 県 52.6% 全国 57.6%>

日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題

【分析】

・「言う」などの尊敬語については理解できているが、「聞く」などの謙譲語については理解できていなかったと考えられる。

【教科としての対策】

- ・図などから正しい語句を関連付けられるようにするため、説明文などの単元で、学習活動に必要な文章を抜き出したり、適切な材料を集めたりする活動を通して、語句と図との結び付きに慣れるようにする。また、異なる内容の資料をまとめてどのようなことが言えるのかを考える時間を設ける。
- ・謙譲語では、練習問題を解いたり、教師との会話の中で指導を繰り返したりしていく。また、学校行事や来客があるときなどの機会と関連付けていく。

(2) 算数

○成果が見られた問題

3 (1) <本校 90.0% 県 69.7% 全国 70.3%>

()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を、場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・問題文が長かったが、問題の場面を読み取って正しく答えることができおり、加法と乗法の混合した式を、場面と関連付けて読み取ることができたと言える。さらに学力を伸ばしていくためにも、自分の言葉でも答えられるようにしたい。

●課題のある問題

3 (4) <本校 40.0% 県 46.7% 全国 47.6%>

(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・位取り記数法に関する問題である。筆算の商の十の位にたてた「2」が、 $60 \div 3$ の計算をした結果を表していると捉えるために、 $66 \div 3$ の筆算を図と関連付けて考察する必要がある。

【教科としての対策】

- ・乗法の計算、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする問題、(2位数)÷(1位数)の筆算の問題など、特徴ある出題の仕方の問題については、積極的に練習問題や発展的な問題として取り入れていく。

3 9 学年の分析と対策

(1) 国語

○成果が見られた問題

3 一 <本校 83.3% 県 53.4% 全国 54.3%>

読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて文章を整えられるかどうかをみる問題

【分析】

- ・主に「書くこと」に関する学習の中で、時間をかけて文章を推敲したり、主述のねじれがないか確認したりする活動を行ったことが、文章表現の意図を考える力にもつながったと考えられるので、今後も継続していきたい。

●課題のある問題

4 三 <本校 50.0% 県 49.8% 全国 50.0%>

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・誤答で最も多かったのは、工夫について書かれているものの、表現を取り上げて書くことができていないものであった。また、表現を取り上げながらも、「」を付けず、引用として適切に扱えていないものであった。

【教科としての対策】

- ・無解答率が全体的に低く、記述する力や意欲が身に付いている。今後は、引用などの知識・技能の定着のため、「書くこと」の単元の中で、引用を条件としたり、複数の条件を設けたりするなどして、複雑な条件下でも正確に書く力を身に付けたい。その際に、初めから条件を複雑にするのではなく、スモールステップで条件を増やしていくことで、「条件を整理していけば、自分の力で書ける」という実感をもてるよう、指導していきたい。

(2) 数学

○成果が見られた問題

7 (2) <本校 83.3% 県 34.4% 全国 33.6%>

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・データの活用における記述式の問題形式であり、思考・判断・表現の評価観点の設問である。学習指導要領を踏まえ、様々なデータの分布資料を使い、根拠となるポイントや着目する用語をその都度確認しながら学習してきたので、今回も箱ひげ図の箱の位置を用いて説明することができた。今後は、説明する事柄も記述できるよう指導していきたい。

●課題のある問題

1 <本校 33.3% 県 46.4% 全国 46.1%>

自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題

【分析】

- ・中学で「負の世界」が加わり、数の範囲が拡張した。そのときに正の整数=自然数と確認し、整数は「負・0・正」で、0は正でも負でもないと学習するが、自然数について正しく理解できていなかったと考えられる。

【教科としての対策】

- ・全国学力・学習状況調査や学力診断のためのテスト等では、誤答の様子を確認し、分析や対策に触れる機会があるため、普段の学習に過去問を使用したり、学び直しに生かしたりしたことが今回の成果につながったと考える。引き続き、基礎基本の振り返りも大切にしていきたい。

(3) 外国語(英語)

○成果が見られた問題

7 (1) <本校 100% 県 59.2% 全国 59.8%>

文と文との関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉える問題

【分析】

- ・授業の中で繰り返し英文に触れることで、概要や接続詞の意味をしっかりと捉えられていたことが正答につながったと考えられる。
- ・「まとまりのある英文」を読んだり書いたりすることは、今後も重要視される。読む練習を多く行い、概要を捉えたり、つながりのある2~3文の英文を書いたりする活動等を、今後も積み重ねていきたい。

●課題のある問題

8 (2) <本校 0% 県 20.8% 全国 19.5%>

「書くこと」 社会的な課題に対して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題

【分析】

- ・動詞が抜けており、正しく伝わるように書くことができていなかった。日頃から、基本的な文法事項を理解できるよう、指導していきたい。

1 (1) <本校 0% 県 - % 全国 19.0%>

「話すこと」 日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる問題

【分析】

- ・「即興のやり取り」に対して、即座に状況を判断し、必要な情報を瞬時に読み取る力が必要であるため、相手の話や視覚的な資料(情報)から、聞き取ったり理解したりする総合的な力の強化が必要である。

【教科としての対策】

- ・まとまりのある英文を繰り返し書く活動を取り入れ、文法等の正確性を高める指導をしていきたい。
- ・授業の中で、Small Talk など即興でやりとりを行う機会や、習った文法事項を多く活用する機会を意図的に取り入れていく。また、T.T.の長所を生かし、生徒同士だけでなく、生徒対教師でやりとりを行うことで、会話を広げる方法についても身に付けられるようにしていきたい。